

歌仙

「永遠にいとしき」の巻

村上重陽兄 追善供養

桃李歌仙の会一同

手に白きいとしき永遠の梅の花

重陽

弓なす浦の東風白ひたつ

丹仙

君と酌む銘酒佳肴に春闌けて

ぼくる

北への想ひ歌ふひと節

真奈

山高きふる里の月湯のけふる

やんま

露草分けて投げる釣竿

白馬

盆用意逝き方上手といわれても

シナモン

心くばりに残す一筆

寂仙

おかつぱのおてんば少女疎開っ子

海苔子

おにぎりひとつ半分こして

ぼぼな

革命の天使の君に差し入れる

丹仙

夏怒涛寄す月の要塞

ぼくる

サイパンの海を恋うるか初蛩

真奈

ワインに附けてメ鯖なんぞ

やんま

鍛へたる五感楽しむ国境

白馬

革の上衣をしなやかに着る

シナモン

花吹雪掬ふ指先昭和の子

寂仙

千鳥ヶ淵にあまた蘂

海苔子

春暁のジョギングの息かろやかに

ぽぼな

日の箭に醒むる古都の街道

丹仙

侍りたる祇園芸妓にや眼もくれず

ぼくる

貌はユルキャラなれど硬派で

真奈

おかめ市幼馴染に糸切齒

やんま

聞くともしなしにきく名残雪

寂仙

遅春の幌下ろしたる人力車

シナモン

同じ方角仔馬過ぎ行く

白馬

野望抱くヒルズ族生み早十年

海苔子

空のポケットぽんと叩いて

ぽぼな

盗人に差上げませう窓の月

丹仙

竜田姫より届く風信

真奈

新米と新酒新蕎麦調へて

寂仙

阿吽の吽はいつもワタクシ

やんま

かみさんにやり込められて搔く頭

ぼくる

相場あがってちよいと反身に

シナモン

芍薬はなほ花やぎの紅を喚び

白馬

Tシャツで訪ふ「神田」てふ店

海苔子

桃李歌壇歌仙の部屋にて

捌 真奈

平成二十五年三月 一日起首

五月一七日満尾